

単元名:「ちがいを豊かに」

～ペルーとのつながりから考える みんなでつくる みんなの社会～

氏名:前塚 卓三	学校名:門真市立第五中学校	
担当教科:英語	実践教科:総合的な学習の時間、道徳、英語	
時間数:9時間	対象学年:2年	人数:145人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

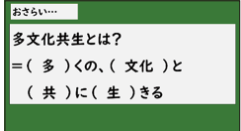
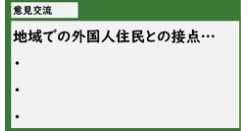
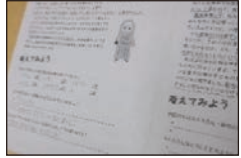
- ・写真や動画、メッセージのやり取りを通して、ペルーの中学生とつながり、交流する。日本からペルーへの移住の歴史やペルーの日系社会について考え、多文化理解を深める。
- ・世界的な課題を自分ごととして捉え、ちがいを尊重できる社会にしていけるために、自分たちが住む地域社会(門真市)に目を向け、多文化共生と防災の観点から、自分たちができることを考え、問題解決のために行動にうつすことができる。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 知識・技能	ペルーと日本との相違点を考え、多文化について理解している
	(イ) 思考・判断・表現	ケーススタディなどの活動を通して、多文化共生の実現に向けて自分の考えを表現している
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	世界的な課題を自分ごととして捉え、地域社会において、多文化共生のまちづくりについて主体的に考えようとしている
【3】 単元設定の 理由	【生徒観】 大阪府下において、本市は在留外国人数が比較的多い。またその国籍も約30か国(2024年現在)と多様である。市内の小中学校においても、外国につながるの児童生徒が在籍している。多数在籍校や少数点在校など状況は様々である。各校では、国際理解教育・多文化共生教育が取り組みられ、外国につながるの児童生徒が参加する行事なども実施されている。 本校にも、様々な国や地域につながるの生徒が在籍している。これまで、「クラスに日本語がわからない海外からの生徒が来たら…」[マイクログレッションについて考える][OFIX(大阪府国際交流財団)外国人サポーターによる国際理解教育]など、1年次から多文化共生学習に取り組んできた。 本学年の生徒の中にも、小学校時代から校内で日本語指導や母語指導を受けている生徒が在籍している。しかし、それらが彼らにとっても、周りにとっても「自然な状況」として日常に溶け込んでいるために、却って様々な問題を「自分ごと」として捉えることが不十分になっていると感じている。 【教材観】 今回、授業者が教師海外研修に参加し、ペルーで見て、体験し、感じたことを教材として、これまで学んできた多文化共生学習を発展的なものにしていきたいと考える。 【指導観】 ペルー出発前、ペルーの中学生に自分が送りたい漢字とその意味を書く、自分が興味関心のある質問をする、校内啓発ポスターを作成するなど、ペルーの中学生と様々な形で「つながる」ことを意識し、事前事後学習として計画した。ペルーの公用語であるスペイン語にも触れ、英語以外の外国語にも興味関心が高まった。 JICA国際理解教育セミナーで学んだワーク、「世界がもし100人の村だったら」の取り組みを、世界で起こっている諸問題を自分ごととして捉えるきっかけとする。そして、ペルー移民の歴史や日系人がペルー社会にもたらした影響について考えることで、「多文化共生社会」に目を向けさせていく。 また、本単元の学習が総合的な学習の時間において、身近な地域社会の課題の解決として、生徒が主体的に関わり、地域社会の発展に貢献する意識や態度を育成することを期待している。	

【4】展開計画(全9時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 2 英語	<出発前> [ペルーの中学生とつながる①] ・ペルーについて興味関心を持つ ・JICAの活動について知る ・メッセージカード作成によりペルーの中学生とのつながりを感じる ・校内啓発ポスターの作成により、ペルーの中学生に日本の学校文化を紹介する ・スペイン語に触れることで、英語以外の外国語に興味関心を持つ	①「この国はどこでしょう」英語でペルーについてのクイズ ②JICAの活動、JICA海外協力隊、JICA関西の展示物の紹介 ③フォトランゲージ(子どもが水を汲んでいる写真、子どもがサッカーボールを作っている写真)を通じて、開発途上国の問題について触れる ④生徒アンケートの実施(ペルーの中学生への質問、生徒が授業者にペルーで見てきてほしいもの、ペルーの中学生に送りたい漢字) ⑤メッセージカードの作成(ペルーの中学生に送りたい漢字、質問、メッセージ)日本語とスペイン語の併記 ⑥校内啓発ポスターの作成(テーマ:あいさつ、いじめ、校内美化、食に感謝)日本語とスペイン語の併記	・自作スライド ・授業者がJICA関西で撮影した写真 ・Google フォーム(生徒アンケート) ・Google 翻訳 ・メッセージカード ・ポスター用紙 What are they doing?  
3 4 英語	<帰国後> [ペルーの中学生とつながる②] ・授業者がペルーで撮影した写真(スライド)を見て、日本との相違点について気づき、考える ・ペルーの中学生からの返事(メッセージ)を読んで、スペイン語を調べて英語以外の外国語に興味関心を持つ ・メッセージカードや啓発ポスターを読んで、ペルーの中学生とのつながりを感じる ・ペルーの中学生と今後どのような関わりをしていきたいかを考える	①「先生がペルーで見たもの」授業者による教師海外研修の簡易報告(日系移民の歴史や防災については、後日紹介するため、ここでは触れない) ②ペルーの中学生からの返事(メッセージ)を、スペイン語から日本語に翻訳する ③ホセ・ガルベス日系校の生徒からの動画を視聴し、英語でメッセージ動画を送る(グループ活動) ④生徒アンケートの実施(今後、ペルーの中学生とどのように関わっていききたいか)	・自作スライド ・授業者がペルーで撮影した写真 ・Google フォーム(生徒アンケート) ・Google 翻訳 ・ペルーの中学生が作成したメッセージカード、校内啓発ポスター、メッセージ動画  
5 道徳	「世界がもし100人の村だったら」 ・「世界がもし100人の村だったら」に描かれた世界の現実を、疑似体験する ・世界の諸問題について興味関心を持ち、「自分ごと」として捉える	①アイスブレイク(自分が行きたい国とその理由、世界の人口と国の数クイズ) ②世界の言葉で「こんにちは」 ③大陸ごとに分かれてみよう ④富を多く持っているのは誰? ⑤文字が読めないということ ⑥振り返り	・「世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会) ・役割カード ・自作スライド ・Reflectionワークシート 

6 総合	「ペルーの日系社会を知る」 「人種差別について考える」 ・ペルーへの移住の歴史を知る ・日系人がペルー社会にもたらした日本文化の継承と普及について理解する ・「人種」について考え、アンコンシャス・バイアスにより引き起こされる「人種差別」の問題性について考える ・日本の中の人種差別について考える	①1年次の多文化共生学習、国際理解教育について振り返る ②フォトランゲージ(写真:「君が代」の歌詞カード) ③ペルー日系人の歴史を知る(動画) ④ペルーで見つけた「日本」(授業者が現地で撮影した写真から、ペルーの日系社会について考える) ⑤ペルーで出会った「日系人」(複数の文化のはざままで生きる人々) ⑥「人種」について考える(赤ちゃんカードよりアンコンシャス・バイアスの導入) ⑦日本の中の人種差別について(サッカーリーグ浦和レッズ 差別横断幕の波紋) ⑧本時の振り返り(ドキュメント)	・自作スライド ・フォトランゲージ用写真1枚(1枚の写真を4分割したもの) ・授業者がペルーで撮影した写真 ・ニュース動画 ・Google フォーム(授業者が撮影した写真にコメントをする) ・「ちがいでキドキ多文化共生ナビ1・2」(大阪府在日外国人教育研究協議会)
7 総合 本時	「みんなでつくる みんなの社会① ～多文化共生社会の実現を目指して(まちづくり)～」 ・ケーススタディを通して、地域における多文化共生について理解を深める ・日本で生活する外国人住民との共生について考える ・やさしい日本語への変換を体験する ・門真市における多文化共生のまちづくりについて、自分のアイデアを形にし、自分ごととして捉える →後日校内のALTIに、多文化共生を目指した学校や行事、施設などのアイデアを英語で提案する	①多文化共生社会についての導入 ②ケーススタディ A. ベトナム出身 技能実習生(日本での生活様式がわからない) B. ネパール出身 留学生(災害時の情報が得られない) C. インドネシア出身中学生(宗教が理由による日本での生活様式の違い) D. 日本人主婦(地域の外国人住民が地域ルールをわかっていない) ③やさしい日本語変換体験 ④門真市における多文化共生のまちづくりについて、ブレインストーミングをする(5つのカテゴリーのアイデアをPadletに入力する) ⑤多文化共生のまちづくりにおいて、自分でテーマを決めて、アイデアを形にまとめる(スライド作成) ⑥本時の振り返り(ドキュメント)	・自作スライド ・「多文化共生ってなんだろう」(JICA九州) ・Padlet(意見の入力)「多文化共生を目指したまちづくり」 ・Googleスライド(生徒作成用) 
8 9 総合	「みんなでつくる みんなの社会② ～多文化共生社会の実現を目指して(防災)」 ・ミ・ペルー区での防災活動について知る ・JICA海外協力隊員から、やりがいや困難さなど思いを理解する ・JICAエッセイコンテスト応募作品を読み、外国につながるある生徒の思いを理解する ・多文化共生社会の実現に向けた「未来の門真市」や、「自分の行動」について考える ・やさしい日本語や英語を用いて、外国人住民を支援する防災情報を作成する	①フォトランゲージ(写真:日系校の避難訓練、ミ・ペルーの様子) ②ミ・ペルーで地域社会に根差した防災活動をしている、JICA海外協力隊や日系ペルー人の紹介 ③JICA海外協力隊員(柏木さん)の紹介とミ・ペルーでの防災活動について考える(柏木さんが撮影した写真) ④まとめ:JICAエッセイコンテスト応募作品を読み、外国につながるある生徒の思いを理解する ⑤My action plan(多文化共生社会の実現に向けて自分の考えをカードに記入) ⑥やさしい日本語や英語を用いて、防災関連のポスターを作成する ⑦取組全体のまとめ(ドキュメント)	・自作スライド ・授業者がペルーで撮影した写真 ・Padlet(フォトランゲージ) ・Googleフォーム(写真にコメントを入力する) ・柏木さんから中学生へのメッセージ ・JICAエッセイコンテスト応募作品 ・カード ・Googleスライド、ポスター(生徒作成用)

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○前時の振り返り ・「なぜ『君が代』の歌詞カードがペルーの人の名刺入れに？」 ・授業者がペルーで出会った人々 ・移民の歴史と日系社会 ・人種差別について	○前時の振り返りシートで出た意見を全体で共有する ○「多文化共生」という言葉の意味について理解する ○地域に住む外国人住民との接点について考える (以下例) ・近くのコンビニに外国人留学生が働いている。 ・家の近くに外国の料理店がある、など →多文化共生はすでに自分たちの身の回りにあることに気付かせる	○自作スライド 
(5分)	○多文化共生な社会について ・多文化共生とは？ ・あなたの町に住む外国人住民について	○国内事情について説明する ・深刻化している人手不足 ・外国人材の受入れの拡充 ・留学する外国人の増加 など	
展開 (20分)	○日本に観光客だけではなく、なぜ外国人住民も増えたのか？ ○なぜ、地域社会において多文化共生が必要なのか？ ○ケーススタディ A. ベトナム出身 技能実習生 (日本での生活様式がわからない) B. ネパール出身 留学生 (災害時の情報が得られない) C. インドネシア出身中学生 (宗教が理由による日本での生活様式の違い) ・日本人住民のケース D. 日本人主婦 (地域の外国人住民が地域ルールをわかっていない)	○3人組で活動する ・A/B/Cのケースから一人1つ選んで読み、「考えてみよう」のパートについても記入する ・グループ内で各自が選んだケースについて紹介し、問題の背景や支援方法について考えていく ・Dの日本人住民のケースは全体で考える	○JICA九州 「多文化共生ってなんだろう？」 ・ケーススタディ (No.1、2、3、5) ・問題の背景として考えられること ・実際の事例 
まとめ (20分)	○「やさしい日本語」変換体験 ○「多文化共生をめざしたまちづくり」というテーマでアイデアを入力する ○アイデアを1つ選び、形にする。門真市在住の外国人住民に提案する内容を考え、スライド作成	○ペア・グループで意見を共有 ○5つのテーマ①学校②会社・店③施設・イベント④防災⑤地域社会・地域住民 ○「もし門真市にこういうものがあたら」という視点で考える ○考えたアイデアは、後日ALTに英語で提案する	 ○自作スライド ○Padlet ○Googleスライド

【授業実践の様子】

問題提起されたケーススタディを通じて、外国人住民との共生について考える

3つのケース (A) (B) (C)



3つのケース (A)

ヴィンさんの情報

出身国	ベトナム
性別	男性
年齢	20歳代後半
在留資格	技能実習
日本滞在歴	1年
同居家族	なし



3つのケース (B)

クリシュナさんの情報

出身国	ネパール
性別	女性
年齢	20歳代前半
在留資格	留学
日本滞在歴	4年
同居家族	なし



3つのケース (C)

プトリさんの情報

出身国	インドネシア
性別	女性
年齢	11歳 (小学5年生)
在留資格	家族滞在
日本滞在歴	3年
同居家族	父・母・弟 (9歳)

D



山田さんの情報

居住地	あなたのまち
性別	女性
年齢	50歳代
職業	主婦



自治会



外国人家族 (スミスさん) の情報

家族構成	
夫 (30歳代、語学講師)	
妻 (30歳代、主婦)	
長女 (8歳、小学生)	
長男 (2歳)	

Padletにアイデアを入力し共有する

多文化共生を目指したまちづくり

Padlet

多文化共生を目指したまちづくり

多文化共生を目指すためのアイデアを入力しよう！

学校 会社・企業・商 施設・行事・イベント 観光 地域社会・地域住民

多文化共生を目指すためのアイデアを入力しよう！

多文化共生を目指すためのアイデアを入力しよう！

ジェスチャーも交えながら表現していた

やさしい日本語に変換！体験

①この会館内は飲食禁止です。	
②何時にいらっしゃいますか？	
③手をピカピカにしてください。	
④普通ゴミとペットボトルは分別して捨ててください。	
⑤地震発生時の避難所は五中です。	
⑥余震が来る可能性がありますので気をつけてください。	

多文化共生のまちづくり生徒アイデア

My idea (多文化共生アイデア)

通訳ロボットの配置「ツウヤくんZ」

多言語が学べる教室
言語を教え合い交流する

My idea (多文化共生アイデア)

多文化共生を目指すためのアイデアを入力しよう！

多文化共生を目指すためのアイデアを入力しよう！

市内在住の外国人住民に向けた防災ポスター

もしものときは

かぞく・じぶんをまもろう！

やさしい日本語や簡単な英語でポスター作成

If an earthquake happen, let's go to Daigo(5th) Junior High School!!

【6】本時の振り返り

外国人住民の様々な課題に触れさせたく、1時間に3つのケースを考えさせることにした。外国人住民だけではなく、日本人住民が抱える課題にも触れた。このことにより、外国人住民への支援や、地域社会の中でお互いがどのように「共生」していくかを考える手助けにもなった。「外国人住民はみんな英語が話せるの?」という疑問から、「やさしい日本語」体験へとスムーズに進めることができた。外国人住民への提案も、自分自身に関連するもの(スポーツや音楽)もあり、生徒たちは主体的に考えていた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

ペルーの中学生との交流、ペルーへの移住や日系社会の歴史、人種差別について、多文化共生社会のまちづくり、防災、外国につながるのある生徒理解など、単元内での活動が多岐にわたっているため、各項目において生徒の考えや感想を共有する。

ペルーの中学生との交流

- ・日本で人気のアニメがペルーでも人気で、親近感がわき、うれしくなりました。
- ・メッセージカードに日本語が書いてあって、日本語ができることがすごいと思いました。
- ・自分が書いた質問に、答えてくれただけではなくて、メッセージも書いてくれてうれしかった。
- ・絵やイラストが上手なポスターが多かった。
- ・絵がうまい人が多かった。日本語が書いてあったのもすごい。五中の生徒会のキャラクター(めばえちゃん)を真似して書いてくれたのが、とてもうれしかった。

移民の歴史や日系社会について

- ・日本とペルーに良い関係があって驚いた。名刺入れに日本の国歌を入れてくれていて嬉しかった。
- ・(もし自分が移住するとなるとトランクには)僕は「知識と経験」を詰めて移住したいです。
- ・思っていたよりも、ペルーと日本のつながりは深いということに驚きました。戦争があつたりしてもそのつながりは途切れなかったことに、すごいなと思いました。
- ・日本語が話せないからという理由で、いじめられていた人が、大人になってから日本語の先生になったというのを聞いて、とてもすごいと思ったし、嬉しくなりました。
- ・先祖が日本人の人がペルーにもたくさんいて、その人たちの中には、たくさんの悩みを抱えている人がいるということがわかった。
- ・ペルーの日系社会を見てみて、ペルーではこんなに日本のことが大切にされているんだなと驚いた。
- ・ペルーに日本の文化があるのは、このような日系の方たちがいたから広まったと思うので尊敬します。

人種差別について

- ・人種差別はしているつもりはなかったけど、赤ちゃんカードで無意識にしていました。
- ・無意識の偏見は悪意がないから悪いので、自分たちから意識を改善していけたらいいなと思いました。

多文化共生社会のまちづくりについて

- ・多文化共生といっているけど、まだ他の国の人に対する配慮が足りていない部分があるなと思った。
- ・門真市はどんな多文化共生のまちづくりをしているのだろうと、もっと知りたいと思いました。
- ・自分の近所に中国の方が住んでいて、自治会費を集めるときに、日本語で話しても伝わらなかったけど、ひらがなで書いた紙を渡したら伝わったので、聞き取れなくても読めるという海外の方がいることを知りました。
- ・外国人住民には不安があって、みんなが本当に住みやすいと思える場所を作るとは、とても難しいことなんだとわかりました。
- ・私も英語をペラペラ話されてもわからないので、やさしい日本語を使うようにしたいと思いました。

ペルーの防災について、JICA海外協力隊員 柏木さんのメッセージより

- ・ペルーで防災意識を高めるために、柏木さんのような人がいるからこそ、命が守れているのではないかと思います。世界で活躍されている日本人の存在に感動しました。
- ・今、勉強できていることをありがたく思いたい。私も将来、柏木さんのような役に立つことをしたい。

JICAエッセイコンテストの作品を読んで

- ・自分の辛い経験を、みんなに学びを与え、プラスに変えられる精神が本当にすごいと思った。
- ・小学校の時、海外からの転校生がいて、最初はどう関わればいいのか正解がわからなかったけど、日本語を教えたり、相手が話す言葉を教えてもらったりしているうちに仲良くなれたので、外国人と関わる楽しさや大切さを学ぶことができました。お互いに過ごしやすい場所を作るには、一人ひとりの意識付けが重要になってくると思いました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

対象生徒たちは、1年次でも多文化共生学習に取り組んでいたため、今回の実践でも発展的なものとして、主体的に取り組んでいた。ペルーという国を理解するだけではなく、日本とペルーのつながりから、「地域の多文化共生社会」や「防災」について考えるという、授業者の意図に対して、学習を重ねていくたびに興味を示し、理解を深めていた。外国につながるの生徒が書いたJICAエッセイコンテストの作文を全体で共有し、差別や偏見、多文化共生の課題を身近なものとして捉えようとしていた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】(生徒の感想より)

(授業前)

- ・世界や日本の問題に、何となく知っているけど、具体的なことはわからない感じでした。
- ・外国にルーツを持つ人がどんな悩みを抱えているのかなどを知らずに過ごしていた。

(授業後)

- ・多文化共生について、自分にもできることを探して、自分から取り組んでいきたいと思いました。
- ・日本にも世界にも、色んな国のルーツを持つ人がたくさんいて、その人達はいろんな悩みを抱えている。それをどう解決していくかは、周りの関わり方が関係してくると思った。

【8】自己評価

1. 苦労した点	・授業者がペルーで経験したことを生徒に伝える上で、伝えたいことや内容が多すぎて精選することに大変苦労した。 ・写真1枚を選ぶ時でも、この1枚からどのようなテーマがあり、どのような切り口で使えるかを考え、膨大な資料から絞っていくことが大変だった。 ・移民の歴史、ペルーにおける日系社会の導入から、地域の多文化共生社会の実現というテーマへ、どのように展開していくのか悩んだ。
2. 改善点	・限られた時間数のため、早い段階から授業実践の計画を立てる必要がある。 ・授業内で、生徒同士が意見を交流したり、全体で出た意見を共有する時間をもっと増やすべきだった。

3. 成果が出た点	・事前に、ペルーの中学生との交流(①メッセージカードの作成、②校内啓発ポスター作成)を設定したことから、生徒たちはペルーという「国」や「ペルーの中学生」に親近感を持つことができた。 ・多文化共生について、取組の前や開始直後は、他人事のように捉えている様子があった。しかし、活動を重ねていく中で、「自分たちが住んでいる地域はどうか」「自分だったらどうするか」など、少しずつ自分ごととして捉える姿が見られるようになった。 ・後日の教科(外国語)の活動においても、校内のALTを身近な「日本で暮らす外国人住民」と想定し、多文化共生社会のまちづくりの提案を英語でやり取りすることで、教科指導にも生かすことができた。
4. 備考	・ホセ・ガルベス(日系校)の運動会でペルーの生徒たちが、エイサーの演技をする写真と動画を見せたとき、「私たちが来年するエイサーだ」「ペルーでもエイサーをするんだ」「エイサーを通して交流したい」と大変興味を示していた。 ・授業者がペルーで見て、感じて、体験してきたことからスタートしたこの実践を、今年度で終えるのではなく、ペルーの学校との交流も含め、地域の多文化共生社会のまちづくりの実現を目指す子どもたちの育成のために、今後も発展させながら、継続して進めていきたい。

添付資料:

- ①「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会)
- ②動画:「国交150周年 大使が語る「美食の国ペルー」」(ANNnews)
(https://www.youtube.com/watch?v=_Srw7Rtc8Zo)
- ③「ちがい ドキドキ 多文化共生ナビ1・2 ～在日外国人教育実践プラン集～」(大阪府在日外国人教育研究協議会)
- ④「多文化共生教材(多文化共生ってなんだろう?)」(JICA九州)
(<https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/office/pr/index.html>)
- ⑤動画:「「やさしい日本語」はじめませんか?」(東京都 Tokyo Metropolitan Government)
(<https://www.youtube.com/watch?v=sT-1m5d2Jr4>)
- ⑥「ぼうさいダックカード」(日本損害保険協会)
- ⑦ JICA海外協力隊員 柏木さんからのメッセージ
- ⑧ JICAエッセイコンテスト作品

<メッセージとフォトランゲージ写真>

世界で活躍する JICA 海外協力隊員

ペルー、防災関連、ミキコさん

質問①

ミ・ペルーでの活動について簡単に教えてください。



災害対策課にて地域住民や学校の子どもたちに、防災教育を行っている。小さな町なので火事の後処理、イベントの警備、住宅、店の防災対策がされているか確認後の許可。電気、水道の事故等、殺人事件以外のほとんど事故に対応している。

質問②

活動中の「やりがい」は何ですか？

地域の子どもや住民が、私の話を聞いてくれて、「役にたつよ!」と言ってくれること。街を歩いていると、笑顔で話しかけられることが、やりがいにつながっている。

質問③

活動の中で「大変なこと」は何ですか？

町の環境。危険地域かつ不衛生。また、スペイン語が流暢ではないので話についていけない場合もある。



質問④

日本で「多文化共生と防災のまちづくり」に関して、大切なことは？

相手の立場だったら？ と考えるようにしている。

相手を尊重することを心がけているが、防災については別。

なぜなら、日本で暮らすなら日本のルールを守るよう伝えることが、大切な命や財産を守ることになるから。災害時に外国籍の人々が取り残されないようにすることが大切。



質問⑤

日本の中学生にメッセージをお願いします。

「教育を受けられる幸せ」をかみしめてほしいです。身に付けた知識や経験は、戦争が起きても貧乏になっても、他人に奪われない、「あなたのもの」。

旅行や仕事で海外に出ると、痛感するのは自分の存在価値を示すには、知識や経験などを多く持っている方がよい。

また、やはり英語ができると本当に便利です。英語以外の言語を学ぶ時も、英語がベースにあると役に立つことが多い。特にラテン語系。

ペルーの観光地のガイドも、スペイン語と英語のガイドが多い。中国、アフリカ、ヨーロッパでも、現地語と英語のガイドが多いです。

スポンジのように吸収力抜群なあなたたち。様々なことに興味を持って知識や経験を身に付けてくださいね！



日系校の避難訓練の様子



各教室に防災バッグ



ミ・ペルーの街並み



もう少し近づいてみると…

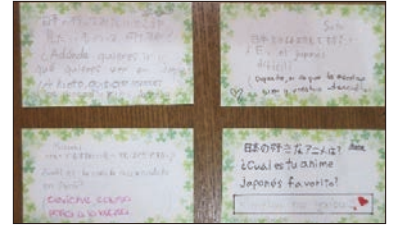
<授業で紹介した写真>



ペルーの中学生に折り紙をプレゼント



ペルーの中学生とメッセージカードで交流



質問にも答えてくれた!!



挨拶・掃除などをテーマに啓発ポスター



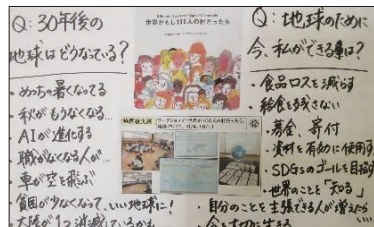
日本の生徒が書いたポスターをペルーで紹介



私たちのポスターが
ペルーの学校に掲示された!



動画を送り合い交流



「世界がもし100人の村だったら」感想



「僕はこのトランクに
知識と経験を入れて行きます!」



日系ペルー人との出会いから



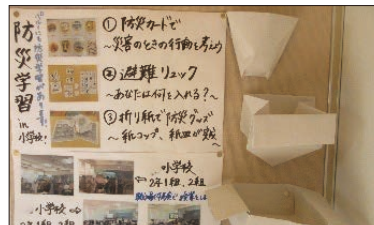
フォトランゲージ (KI MI GA YO??)



ペルーで出会った日系の方々



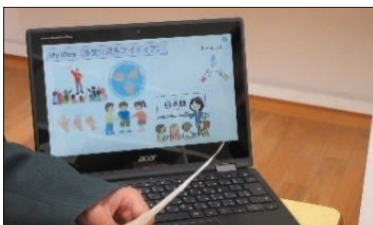
スペイン語版 防災グッズの折り方



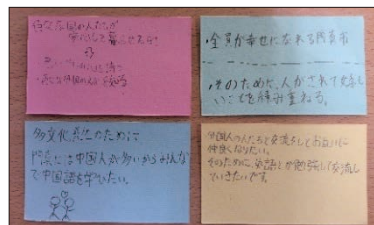
地域の小学校で防災について授業をしました



広がれ! 防災の輪 inミ・ペルー



多文化共生のアイデアを英語で紹介



My action plan ~未来の門真市のために~



これからもつながっていききたい日系社会

参考資料:

- ①「日本と中南米をつなぐ日系人」(外務省)
- ②「PASSPORT(パスポート)」(JICA横浜 海外移住資料館)